

■宗教改革(教科書p. 137~139)

メインエッセション

MQ: 宗教改革は、ヨーロッパの国々にどのような影響を与えたのだろう。

I 宗教改革

◇背景

- ・(1))への批判・・・権力と富を有し、世俗の政治に関与
- ・ヒューマニズムの精神 → 聖書の読み直し、ローマ教会批判がはじまる

◇発端

- ・教皇が(2))建築のため、ドイツで(3))を販売
→ ドイツの神学者[4]]が「(5))」を発表し批判(1517)=宗教改革のはじまり

◇教会の対応

- ・ルター…人は(6))によってのみ神に救われると主張し、教皇の権威を否定 → 教皇から破門

◇影響

- ・神聖ローマ皇帝[7]]が法的保護を停止
→ 皇帝に不満な領邦君主や都市がルターを支持
- ・西南ドイツでは(9))がおこる
→ 農民の行動が激しくなると、ルターは農民の運動に反対
- ・(10)) (1555)・・・領邦はカトリック教会かルター派を選べる
(領民は領邦君主の選択に従う)

カール5世
ハプスブルク家出身でスペイン王(8))となる。神聖ローマ皇帝にも選出され、カール5世となった。

II 教会の分裂

◇スイス:[11]]の**予定説**

・・・人は神の救いを信じ、神から与えられた自分の(12))にはげむ以外にない → 商工業者の支持

◇イギリス:**国王ヘンリ8世**・・・王妃との離婚を認めない教皇と対立

→ 国王を首長とする(13))を成立させる

◇カトリック教会の改革・・・(14))からの批判

→ 公会議で教義を再確認

ルター派の広まり
スウェーデンなど、神聖ローマ皇帝と距離を置きたい北欧の諸国にも広がった。

III 宗教戦争

◇フランス:(15)) (16世紀後半)

・・・王族や貴族がカトリックとユグノー(カルヴァン派)にわかれて戦う
→ **ブルボン家のアンリ4世がナントの勅令**で終わらせる ⇒ ユグノーに信仰の自由をみとめる

◇ネーデルラント

- ・カルヴァン派がスペイン(カトリック)からの独立要求

◇イギリス：(16) (17世紀半ば)
 ……カルヴァン派が専制的な王に反抗して戦う

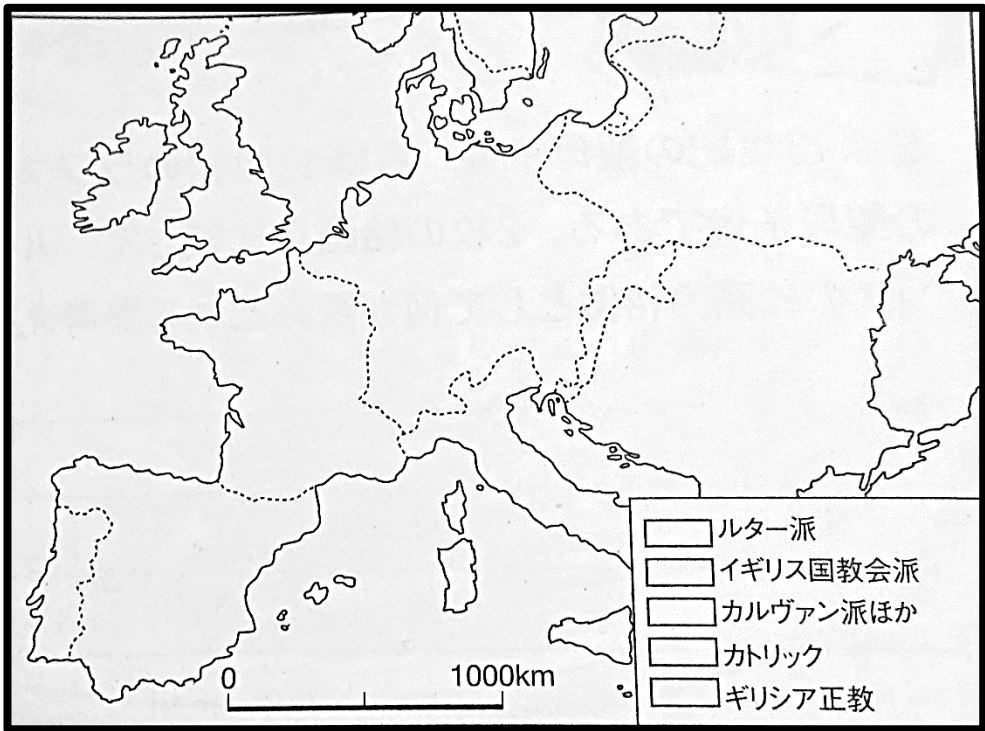
◇ドイツ：(17)
 ・プロテスタントとカトリックが対立、ヨーロッパの多くの国が参戦
 ・講和会議は空前の大規模な国際会議
 ⇒ (18) ……国家主権の尊重 (主権国家体制)

(19)
 イグナティウス・ロヨラが設立。厳しい規律のもとで布教活動を行い、アメリカ大陸やアジアにも進出 ([20]の日本布教)。

Q1 下の表を完成し、宗教改革について整理しよう。

各派	特色(教義・主張など)
カトリック	教会重視、教皇の至上権確認
(A)	聖書中心主義、ただ(B)のみ
カルヴァン派	聖書中心主義、(C)を提唱
イギリス国教会	カトリック的な教義・儀式を残す

Q2 下の白地図に、各派の分布地域を色分けせよ。プロテスタント各派はどこに広がったのだろう。(教科書P138)



1年	組	氏名	検		
----	---	----	---	--	--